

朝日新聞デジタル > 記事

中国、ミャンマー情勢でASEAN支持 南シナ海では溝

会員記事 ミャンマーはいま

高田正幸=北京、西村宏治=シンガポール、半田尚子 2021年6月10日 15時30分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷

list 0



7日、重慶で開かれた中国と東南アジア諸国連合(ASEAN)の外相らによる会議に出席した中国の王毅國務委員兼外相=新華社

中国・重慶で開かれた東南アジア諸国連合(ASEAN)と中国との外相会議で、中国の王毅(ワンイー)國務委員兼外相は、ミャンマー情勢をめぐるASEANが合意した5項目への「支持」を表明し、ミャンマーとの個別会談でも実行を促した。一方、南シナ海をめぐる中国とASEAN側の温度差も浮き彫りになった。

国軍のクーデターで混迷するミャンマー情勢について、ASEANは4月の首脳会議で暴力の即時停止や特使派遣など5項目で合意したが、国軍側は消極的な姿勢を続けている。

王氏は7日の外相会議で「ミャンマー情勢は中国の利益に直接関わる。引き続き建設的な役割を果たしたい」と述べ、5項目の実行を「支持する」と発言。8日には国軍がクーデター後に外相に任命したワナムウンルウィン氏と会談し、合意の実行を働きかけた。

クーデター後、中国は国軍と民主派勢力の双方と接触しており、王氏は「双方がなるべく早く政治対話を通じて相違を解決し、暴力事件が再び発生することを避けることを支持する」と述べ、ワナムウンルウィン氏に民主派との対話の実現を求めた。

南シナ海問題では双方の主張が食い違い、8日夜になった。

中国のEV市場にEV自産車に影響を与える行為の自制などに「合意する」とする参加国の共同声明案が検討されたが、結局はほとんどの問題について「議論した」とする議長声明になった。